SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

「安全な室内環境の整え方」の授業におけるパフォーマンス課題の試み

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡大学教育学部附属教育実践総合センター 公開日: 2019-03-28 キーワード (Ja): 家庭科, 住生活, パフォーマンス課題 キーワード (En): 作成者: 山下, 美乃里, 小川, 裕子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00026377

「安全な室内環境の整え方」の授業における パフォーマンス課題の試み

山下美乃里　　小川裕子
（静岡市立東中学校）　（静岡大学学術院教育学領域）

Attempts on Performance Issues in the Subject "Maintaining a Safe Indoor Environment"

Minori Yamashita　　Hiroko Ogawa

要旨

平成 29 年公示学習指導要領では，「生きる力」をより具体化し，各教科で育成を目指す資質・能力が整理された。こうした資質・能力の育成に向けて，設定した目標の達成状況を把握する評価は大きな課題である。本研究では，中学校家庭科住生活領域においてパフォーマンス課題を検討し，実践，評価を行い，パフォーマンス課題を取り入れた学習の効果を検討した。その結果，単元の学習の最初と最後にパフォーマンス課題に取り組むことによって，生徒の知識量が増加するだけでなく，質的にも深まり，目指す資質・能力のひとつである「思考力・判断力・表現力」について生徒の能力が育つことが明らかとなった。また，単元の最後に取り組んだパフォーマンス課題は，単元のまとめとしての機能を果たすこともでき，生徒自身が知識の定着度を把握することや，自分の住生活をふり返るきっかけとすることもできていた。

キーワード：家庭科　住生活　パフォーマンス課題

１．はじめに―研究の背景と目的―

平成 29 年 3 月に公示された中学校学習指導要領では，改訂のポイントとして「生きる力」をより具体化し，教育課程全体を通して育成を目指す資質･能力を，ア 何を理解しているか，何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得），イ 理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成），ウ どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）の三つの柱に整理するとともに，各教科等の目標や内容についても，この三つの柱に基づく再整理が図られた [1]。このような目標を設定した場合，その達成状況を把握する評価は大きな課題である。評価については，平成 28 年中央教育審議会の「幼稚園，小学校，中学校，高等学校，及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について（答申）」では，資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくために，論述やレポート作成，発表などといった多様な活動に取り組ませるパフォーマンス評価などを取り入れ，多面的・多角的な評価を行っていく必要性について述べている [2]。

パフォーマンス課題を取り入れた授業実践については，多くの教科で取り組まれており，家庭科でも幾つかの授業実践の取り組みがある。山口他（2017）は，食生活領域において「食生活のセルフマネジメント力を身に付けよう」というテーマを取り上げ，パフォーマンス課題を設定した授業実践を行っている [3]。また，角間（2016）は，家族領域において「他者とよい関係をつくる力」の評価にパフォーマンス課題を取り上げた授業実践 [4] や，角間他（2017）では，消費生活領域において「活用する力」を評価するためのパフォーマンス課題の授業実践を行っている [5]。この他にも福岡市教育センターの平成 28 年度の実践報告で衣生活領域においてエコバックを作る計画書の作成や小学校家庭科でごはんとみそ汁の同時調理の計画を行う等といった実践が行われている [6]。しかしながら，住生活領域におけるパフォーマンス課題を取り入れた授業実践の報告は見当たらないなど，家庭科教育において，パフォーマンス課題を取り入れた学習はいまだ十分とは言えない。

そこで，本研究では，中学校家庭科住生活領域の授業において，パフォーマンス課題を検討し，実践，評価を行う。そして，住生活領域におけるパフォーマンス課題を取り入れた学習の効果を検討する。

２．研究の方法

（１）題材計画と授業実践

①授業実践校等

授業実践校は，静岡市立 A 中学校第 2 学年 3 クラスの 76 名（男子 46 名，女子 30 名）である。

②授業期間

授業は，2017 年 9 月 28 日～11 月 13 日に行った。

③題材名　『安全な室内環境の整え方』

④題材計画

題材計画は表 1 の通りである。第 0 次には，授業の成果を測るため，授業後にも行うパフォーマンス課題に取り組み，住生活に関する「知識・技能」，「思考力・判断力・表現力等」についての事前調査を行う。そして，第 1 次に「室内空気の汚染による被害への対策」の内容を，WEB 教材を用いて 1 時間で行う。その後，第 2 次に 2 時間かけて「家庭内事故への対策」と「自然災害による被害への対策」の内容を併せて実施する。第 3 次にパフォーマンス課題（事後調査）に取り組む。

（２）パフォーマンス課題による評価の方法

中学校家庭科住生活領域「安全な室内環境の整え方」の授業においてパフォーマンス課題を検討し，授業実践を行い，パフォーマンス課題に対する解答についての評価を行う。それらを分析し，パフォーマンス課題

表１　題材計画

次	時	学習活動
0	0	パフォーマンス課題（事前）
1	1	○室内空気の汚染への対策 ・WEB 教材を用いて，室内空気の汚れの原因を知り，衛生的な室内環境の整え方を考える。
2	2 3	○家庭内事故への対策 ○自然災害の被害への対策 ・WEB 教材を用いて，家庭内事故や住まいにおける自然災害の被害とその原因について知り，家族にとって安全な室内環境の整え方を考える。
3	4	**○パフォーマンス課題（事後）** ・単元で学習した知識を活用して，他者に分かりやすい資料を作る。

を取り入れた学習の効果を検討する。

西岡（2016）は，パフォーマンス課題を「様々な知識やスキルを総合して使いこなすことを求めるような複雑な課題」と述べており，「逆向き設計」論にもとづくパフォーマンス課題の作り方として，①単元の中核に位置する重点目標に見当をつける，②「本質的な問い」を明確にする，③「本質的な問い」を問わざるを得ない文脈（状況など）を想定し，パフォーマンス課題のシナリオを作る，という手順を示している[7]。さらに，西岡（2017）の示す手順[8]に基づいて，「安全な室内環境の整え方」の学習においてパフォーマンス課題を設定するため，表２に示すように，重点目標，本質的な問い，永続的理解について設定した。そして，「本質的な問い」を問わざるを得ない文脈のパフォーマンス課題のシナリオを設定した。また、以上の課題では，シナリオに加えて，３LDK の住宅の間取り図（図４～７参照）を提示した。なお，この間取り図は，星野，吉本ら（2018）による研究[9]で用いられた調査票から引用した。

また，以上のパフォーマンス課題を評価するためのルーブリックを表４のように設定した。このパフォーマンス課題に取り組む上で，他者の住生活において，その家族の状況を想像しながら，住生活の安全面での問題点を見付け，それらを解決するために住生活を工夫する力が必要となる。

平成 29 年公示学習指導要領では，各教科の学習内容を通して育成を目指す資質・能力が明らかにされている。中学校家庭科住生活領域において育成を目指す資質・能力は表３に示すようにまとめられている。本研究では，パフォーマンス課題から，まず，「知識・技能」については，危険箇所の指摘または対策の記述数によって測ることとする。次に，「思考力・判断力・表現力等」については，パフォーマンス課題の中で，①課題（危険と予測される原因）を見付け，②対策と③対策の理由を記述できているかについて，各生徒のすべての記述を評価する。以上の３点共記述できているものを３点，２つ記述できているものを２点，１つ記述できているものを１点として評価する。ただし，生徒の記述の中には，今回の題材である安全な室内環境以外の内容や安全面の問題であっても誤った記述が含まれていたが，これらはすべて「その他」とし，指摘件数についてのみ集計することにする。なお，「学びに向かう力・人間性等」については，本研究のパフォーマンス課題では読み取ることは困難であると考えた。

表２　逆向き設計論によるパフォーマンス課題

単元目標	住まいの基本的な役割を理解し，家族の住空間について，様々な視点から，自分と家族が安全な住生活を送るための工夫を考え，実行することができる。
本質的な問い	家族が安全な住生活を送るために，どのような対策を考え工夫すればよいか？
永続的理解	住まいは自然から住む人の生命や生活を守り，心身の安らぎと健康を維持し，家族が支え合って成長していく場である。家族の状況に合わせた自然災害への備えや家庭内事故の原因と対策，バリアフリーやユニバーサルデザイン，火災対策，室内空気の汚染による健康被害などの視点から生活空間を工夫することが必要である。
パフォーマンス課題	あなたは住生活アドバイザーです。ある日，中学生が相談に来ました。相談内容は以下の通りです。 「私は祖母，父，母，5 歳の弟，私の 5 人家族です。家は 2 階建ての 3LDK で，父，母ともに共働きで，祖母は少し足腰が悪い状態です。ある日，祖母が洗濯物を干そうと階段を上った時，誤って落ちてしまい，大ケガを負ってしまいました。また，最近，私は自分の部屋にいるとき，かゆみを感じたり，くしゃみが止まらなかったりします。自分の部屋にいる時だけなので，家に問題があるんじゃないかなって思っています。両親に相談したら，祖母もケガをしたし，南海トラフ地震もくるし，私たちの住まいは本当に安全なのか不安な気持ちになっていると言っていました。私たちはこれからどうしたらいいのでしょうか。」 この中学生のこれからの生活行動や住まいについてアドバイスをしてあげてください。その時，中学生にわかりやすくアドバイスをするための資料を作りなさい。

表３　住生活領域で育成を目指す資質・能力

知識・技能	・住居の基本的な機能 ・家族の生活と住空間との関わり ・家族の安全を考えた住空間の整え方についての基礎的な理解と技能
思考力・判断力・表現力等	・家族・家庭や地域における生活の中から住生活について問題を見いだし，課題をもって考え，解決する力
学びに向かう力・人間性等	・住生活を工夫し創造しようとする実践的な態度 ・住生活における日本の生活文化を継承しようとする態度

（３）生徒のふり返りによる評価（自由記述）

パフォーマンス課題に取り組んだ授業（第３次）後，生徒にパフォーマンス課題に取り組んだ感想について自由に記述してもらった。この記述からも本授業実践の成果を考察する。

３．結果及び考察

（１）授業実践[10]

題材「安全な室内環境の整え方」の授業前に，事後で行うパフォーマンス課題と同一の課題に取り組んだ

表４　パフォーマンス評価のルーブリック

内容／評価	室内空気汚染と対策	家庭内事故と対策	自然災害と対策
３点	カビやダニ，化学物質等による室内空気の汚染の原因について記述してあり，それらを防ぐための対策や生活行動の工夫とその理由を明確に記述している。	高齢者や幼児に多い家庭内事故の原因について記述してあり，それらを防ぐための対策や生活行動の工夫とその理由を明確に記述している。	想定される自然災害とその被害，原因について記述してあり，それらを防ぐための対策や生活行動の工夫とその理由を明確に記述している。
２点	カビやダニ，化学物質等による室内空気の汚染の原因について記述がなく，対策や生活行動の工夫とその理由について記述している。	高齢者や幼児に多い家庭内事故の原因について記述がなく，対策や生活行動の工夫とその理由について記述している。	想定される自然災害とその被害，原因について記述がなく，対策や生活行動の工夫とその理由について記述している。
１点	カビやダニ，化学物質等による室内空気の汚染の原因についての記述がなく，知っている対策や生活行動の工夫のみ記述している。	高齢者や幼児に多い家庭内事故の原因についての記述がなく，知っている対策や生活行動の工夫のみを記述している。	想定される自然災害とその被害，原因についての記述がなく，知っている対策や生活行動の工夫のみ記述している。

（図４，図６参照）。事後の課題と一部異なる点は，同一の敷地にある同一家屋の平面図を用いているものの，事前の間取り図には，家具などと共に家族の住生活がわかるように書き込みが施されている点である。生徒はこの間取り図を踏まえて，相談者にアドバイスするための資料を作成した。この課題では，学習前の生徒の住生活に関する知識や理解の状況を把握することを目的とした。また，生徒自身も自分の現段階での知識量や思考力等について認識できると思われる。解答後，これらの課題に対してどのような知識や技能を習得すればよいかについて，生徒同士で話しあった。

第１次では，筆者が製作したWEB教材を使用し，室内空気の汚染の原因であるカビやダニ，化学物質などの人体の健康に及ぼす影響について知り，これらを防ぐための対策をグループで話し合い，考えた。

第２次では，第１次と同様にWEB教材を使用し，２時間かけて，転落・転倒，窒息，溺死など家庭内事故の主な原因と共に，地域で発生が予測されている自然災害（地震）とその被害の状況について知り，これらを防ぐための対策をグループで話し合い，考えた。

第３次では，再びパフォーマンス課題に取り組んだ。学習目標は「家族が安全に暮らせる住まいを考え工夫しよう」である。事後の解答では，家具などの書き込みのない平面図中に，学習した「室内空気の汚染とその対策」「家庭内事故とその対策」「自然災害とその対策」の視点を生かして，相談者家族の生活に必要な家具等を書き込み，さらに，家族の安全な暮らしのために考えたことについて文章で説明を記述した。生徒は，色鉛筆を使用して色分けして示す等，住生活アドバイザーとして相談者に示すための資料（A3用紙）の作成を行った（図参照）。

（２）パフォーマンス課題の評価

パフォーマンス課題の評価に当たっては，授業前（事前）と授業後（事後）の両方に回答した生徒，計63名の解答のみを分析の対象とした。63名の事前・事後の解答（ワークシート）におけるすべての記述について，まず，その内容を「室内空気汚染」「家庭内事故」「自然災害」のいずれかに分類した。ただし，これらの内容に該当しない記述や，該当していても誤った記述については「その他」とした。さらに，前述した３つの内容に関する記述については，表４のルーブリックに基づいて評価を行った。以上の結果を生徒各人ごとにまとめたものを，表５に示す。

1）「知識・技能」の評価

まず，本題材における「知識・技能」の評価は，問題（原因）の指摘または対策の記述数によって行うため，得点に関わらず指摘数に注目した。

63名の全記述数では，事前が267，事後は602に増加した。これらの内「その他」を除いた「安全な室内環境」に関する指摘は，事前が218，事後は424であり，約２倍近くに増加した。さらに内容ごとにみると、「室内空気汚染」では事前97，事後100，「家庭内事故」では事前82，事後149，「自然災害」では事前39，事後175であった。いずれの内容においても事前より事後に指摘数が増えていることは共通してはいるものの，事前の指摘数の多寡や事後の増加傾向に差異がある。「室内空気汚染」については事前にすでに最も多いが，事後の指摘数の伸びがほとんど無い。逆に，「自然災害」では事前の指摘数が最も少ないのに対して，事後の増加が著しい。

さらに，３つの内容ごとに生徒一人あたりの指摘数を算出したところ（図１），「室内空気汚染」では事前が1.54，事後が1.59，「家庭内事故」では事前が1.30，事後が2.35，「自然災害」では，事前が0.62，事後が2.79であった。いずれの内容についても事前より事後の指摘数が多い。

「室内空気汚染」についての事前の解答としては，「窓を開ける」「掃除をする」「（シーツなどの）洗濯をする」等，小学校家庭科での学習内容に関わる記述が多くみられ，事前の解答時にも書きやすかったと推察される。これに対して，「自然災害」に関して事前の記述が少ないことから，本題材で学習するまで「自然災害」については多くの生徒が知らなかったと考えられるが，本授業の効果が著しく表れたと考えられる。

表５　生徒全員の事前，事後の解答の内容と評価結果

通し番号	事前の解答										事後の解答									
	室内空気汚染			家庭内事故			自然災害			その他	室内空気汚染			家庭内事故			自然災害			その他
	1点	2点	3点	1点	2点	3点	1点	2点	3点		1点	2点	3点	1点	2点	3点	1点	2点	3点	
1	2			1						2		1			4		5	1		2
2	3			1	1			2		3			4			4		1	1	2
3		1		1	1		1	1	2	2				3	5		5	1	1	14
4	1	2		1									3	1	1	1		2		2
5	5			1	1		1	1		1		1		1	3		1	9		
6										1		1		1	1					7
7		1			2			4	1	1		1			1			5		2
8				1						2	2				1	1	3			6
9	1			1						1			1		2			1	1	4
10		1		1		1			1			1	1			1			4	1
11			2	1					3		1	1		1		1	1		2	2
12	1	3				1				2			1		1	4		3		6
13		1		1			1			1	1	2			1	3		1		1
14		1	2		2								1		2	1		2	2	2
15				1											1					3
16	4			1	1					1			4			5			2	
17				2						1	1	1		2			1			2
18	1	1		2			1			2		1		1						10
19		4		1						1						1	3		3	3
20	2			2			1			3	1			1			2			5
21	1			2			2					2	1	1		7		3		2
22	1			2										1						9
23	1	1			2		2					3			3			2	1	4
24		1	1	1	1								2		1	1			3	2
25	1				1							2			3			7		
26					1					1		1		2	1					2
27					1					1		1			1					1
28	2				1				3	1		1			5			1		6
29		3			2						1	1		1					3	2
30		1			1					1		3			1				2	
31		1								1		1								5
32		1								1	1	1		3	2					3
33	2	1		2						1		1			3	1	1			2
34		2				1							1			1				
35		1			1			1			1	1		2	1			1		1
36		1		2	1						1				1					
37		1			1					2		1	1	1	2		1	1	4	2
38			1			1						2	1		1	1				5
39			1							4						1			2	2
40	1											1								
41		2			1									1						
42				1								2			1				1	1
43		1			1						3	1			2			2		3
44										2		2		1	1			1		
45					1										2		2		3	2
46		1		1								1			1				1	
47		3			1			1		1								6		4
48		2			1					2		2				2				2
49		1				2		2				1			1	2			6	
50	2											1		1	1			3		
51		1	2				1		1	1		2				1		1	3	3
52		2			1			2					3			2			4	3
53	2										3			1			5			2
54	1			2							2	2				2		4		2
55	2			2						1			1		1	2		8		7
56			1		1								2			4				2
57	1			4						2			2		1	2			3	2
58	2			3			1									3	1	2	2	5
59	1						2								1	1		1	3	7
60	2			2								1		1				5	1	4
61	2			1									1			2			2	
62	1			2					1	1		5				3	3	3	2	
63				1	1					2				1	1			2		7
計	45	42	10	47	29	6	13	14	12	49	18	52	30	28	61	60	34	79	62	178
	97			82			39			49	100			149			175			178
	218									49	424									178
	267										602									

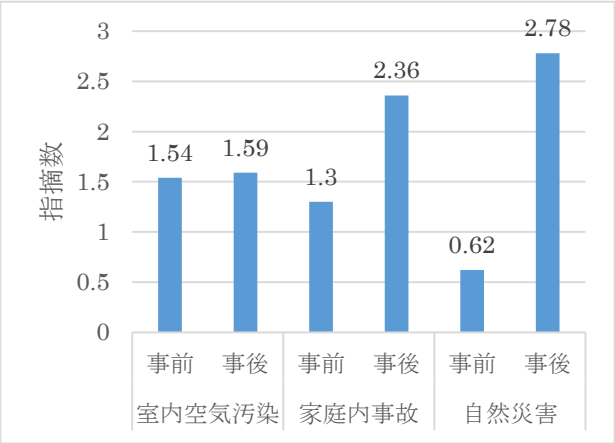

図１　一人当たりの指摘数の変化

2)　「思考力・判断力・表現力等」の評価

解答の記述に関して，「思考力・判断力・表現力等」の評価は表４のルーブリックに基づいて行った。具体的な評価について，No.28 の作品を用いて説明する（図４）。まず，「災害　３点　×3 件」と評価した記述は，「地震の時に（原因）倒れないように（対策の理由），食器棚，収納棚，冷蔵庫（これら３点を図中に線で示している）を固定する（対策）」である。「事故　２点」は，「階段（図中に線で示している）に手すりをつける。転ばないようにするため（対策の理由）」についての評価である。「空気　１点　×2 件」は，「空気の入れかえする（ママ）・きれいにする。へやをそうじする。」についての評価である。このように生徒各人のすべての記述を３段階で評価した。

以上の結果について，まず図２には，３つの内容別に，63 名の全記述の評価点ごとの分布について，事前・事後の結果を示した。この結果を見ると，いずれの内容についても「3 点」「2 点」の記述割合は事後の方が高く，「1 点」の割合は小さくなっている。すなわち，事前より事後の方が原因や対策，対策の理由など，論理的に記述できるようになっていることが伺える。この傾向は「家庭内事故」の内容で最も顕著に表れているものの，「自然災害」ではあまり顕著とは言えない。

しかしながら，63 名の全記述の評価点を加味した指摘得点の平均値を算出したところ，「室内空気の汚染」は事前 2.52 点，事後 3.52 点と５％水準で有意に上昇した（図３）。「家庭内事故」は，事前 1.95 点，事後 5.21 点，「自然災害」は，事前 1.22 点，事後 5.95 点であり，後者２つの内容は 0.1％水準で有意に上昇したことが認められた。これは，「室内空気汚染」に関しては，指摘数の増加は少なかったものの，指摘の評価点が上昇していたため，逆に，「自然災害」では高い評価点の指摘が特に増えたわけではないものの，指摘数が大幅に増加したために，いずれも評価点を加味した指摘得点（評価点×指摘数）の平均値が有意に上昇したと言える。「家庭内事故」に関しては，指摘数も評価点も共に高まっている。すなわち，内容によって理由は異なるものの，いずれも評価点を加味した指摘得点は事後に有意に上昇したことから，事後に「思考力・判断力・表現力等」の向上が認めら

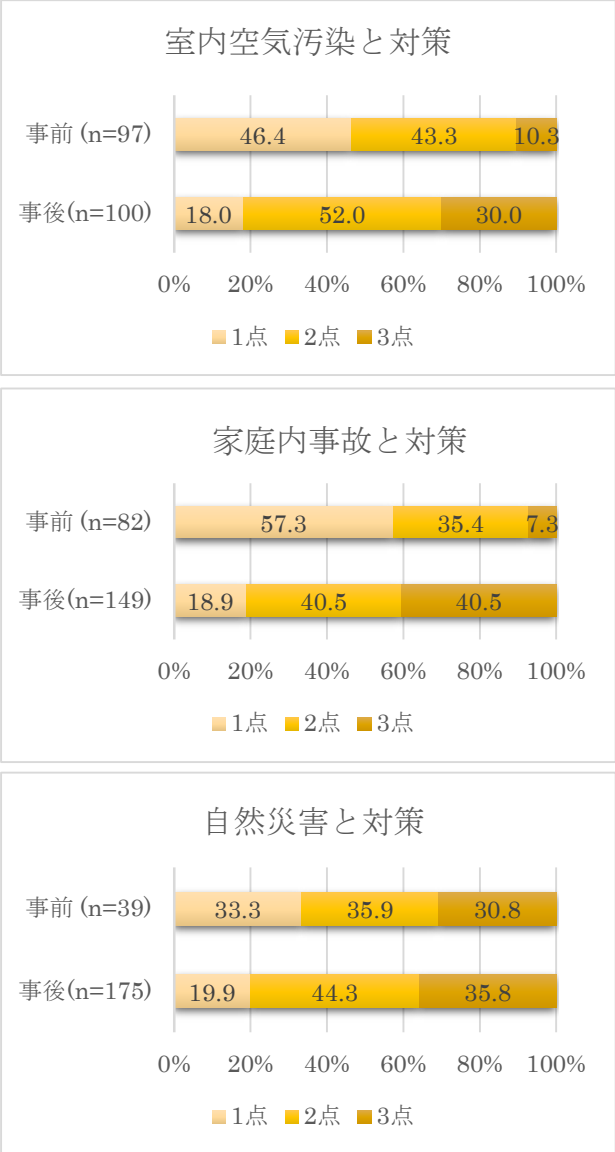

図２　評価点別にみた指摘数の分布

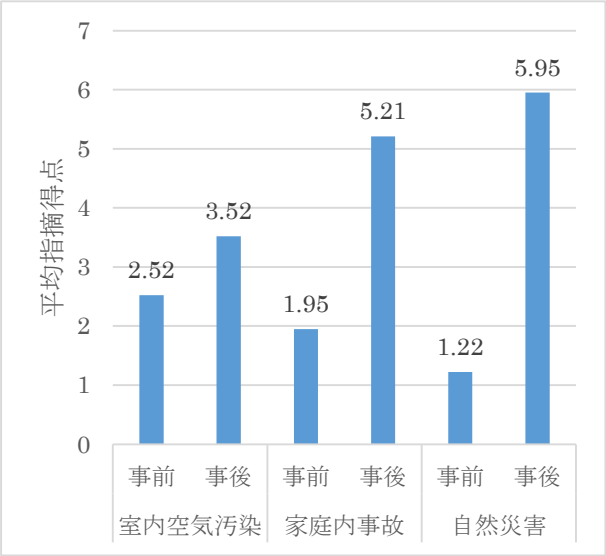

図３　評価点を加味した平均指摘得点（評価点×指摘数）の変化

れたといえよう。

これらは，第１次，第２次の授業において，全体や班での活動の際，他者の意見を聞き，納得したりすることによって，他者に理解してもらうためには，対策だけでなく，想定される被害や原因，その対策をなぜ行うかという理由を説明しなければならないという実感を得たことにより，事後の記述に質的な変化がみられたと推測される。

最後に，二人の生徒の事前，事後のパフォーマンス課題の作品の例を示した。No.28 の例では，「その他」の記述例やその記述数が多かった理由，また，事後に「自然災害」の記述数が多数となった理由が推察できると思われる。No.57 の作品は，事後に明らかに評価点の高い記述が増加している一例である。これらの作品例からも分かるように，事後には事前に示していた間取り図とは異なる部屋の活用や家具配置を考えることが可能である。事後のパフォーマンス課題において，文章だけでなく，平面図中に家具などを書き込むという活動があったことによって，生徒たちはより多くの問題に気付き，対策やその理由を考える機会を得たことが推察された。

（3）生徒のふり返りによる評価（自由記述）

パフォーマンス課題に取り組んだ授業後，生徒に自由記述でパフォーマンス課題に取り組んだ感想を記述してもらった。

「自分の言葉で，今までの授業を生かしながら，アドバイスを書くことができた。最初よりも自信をもって書くことができた。」と述べている生徒がみられた。このように題材「安全な室内環境の整え方」の学習を生かした記述ができたと述べている生徒がその他６名にもみられ，パフォーマンス課題を行うことにより，生徒自身も自分の知識や思考力の状況などを把握することが可能となる様子がみられた。また，「人の家のどこを直せばいいかなどを考えると，自分の家の直した方がいいところもわかるので良かったです」と述べている生徒がいた。このようにパフォーマンス課題を通して，自分の住生活を振り返るきっかけとする様子が他９名にもみられ，授業でパフォーマンス課題に取り組むことによって，自分自身の生活の中にも課題を見つけることにつながることが推察された。

４．まとめと今後の課題

中学生にとって，住まいとは与えられたものであり，与えられたものをそのまま考えずに生活するという受身的なものになりがちである。近年，住生活は多様化しており，生徒の間でも大きく差ができており，一般的な住まいとして学習することが難しい状況がある。しかし，安全な住生活を送るために必要なことはどのような住まいでも共通していることが多い。これらは中学生にとって，身近なことであるにもかかわらず，興味関心が低い。そのため，中学校家庭科で住生活領域の学習を行うことは非常に重要である。

本研究では，住生活領域の学習でパフォーマンス課題に取り組み，次期学習指導要領で目指される資質・能力について，パフォーマンス課題によって測ることを試みた。パフォーマンス

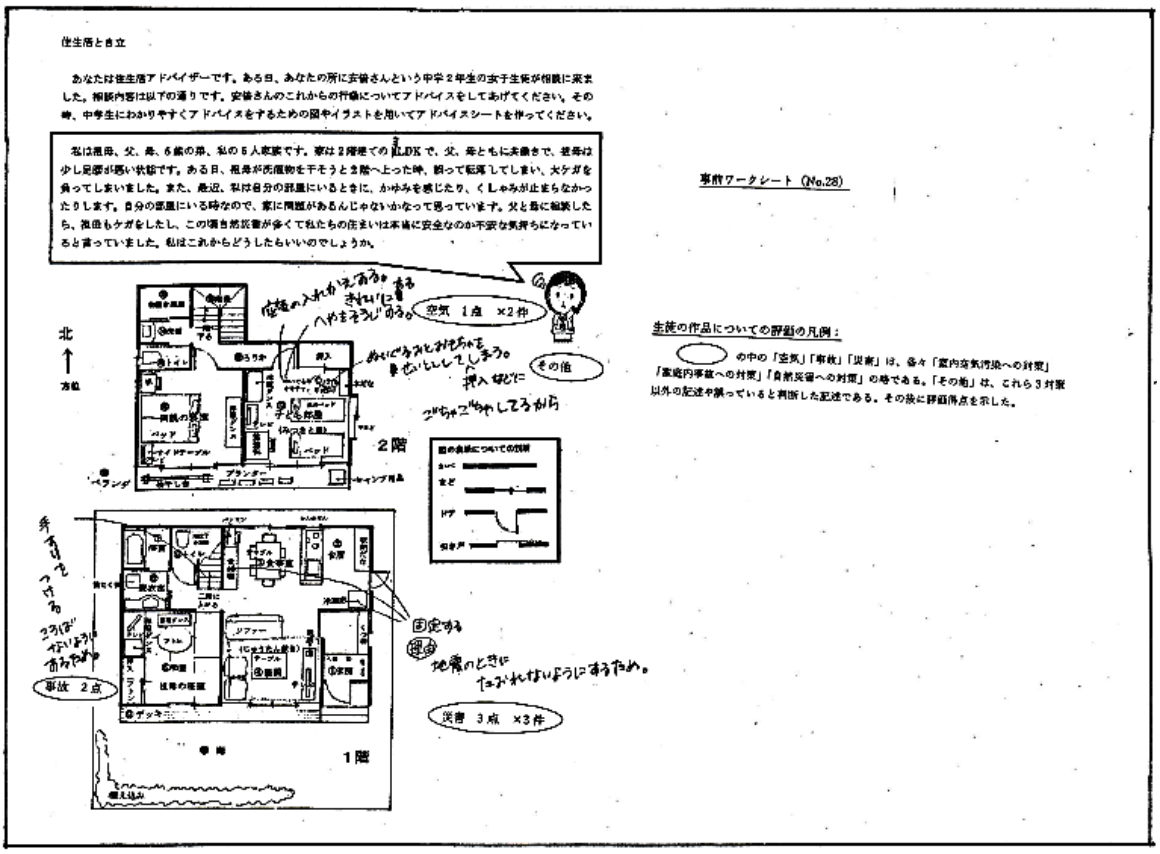

図４　授業前パフォーマンス課題の作品とその評価の例１（No.28）

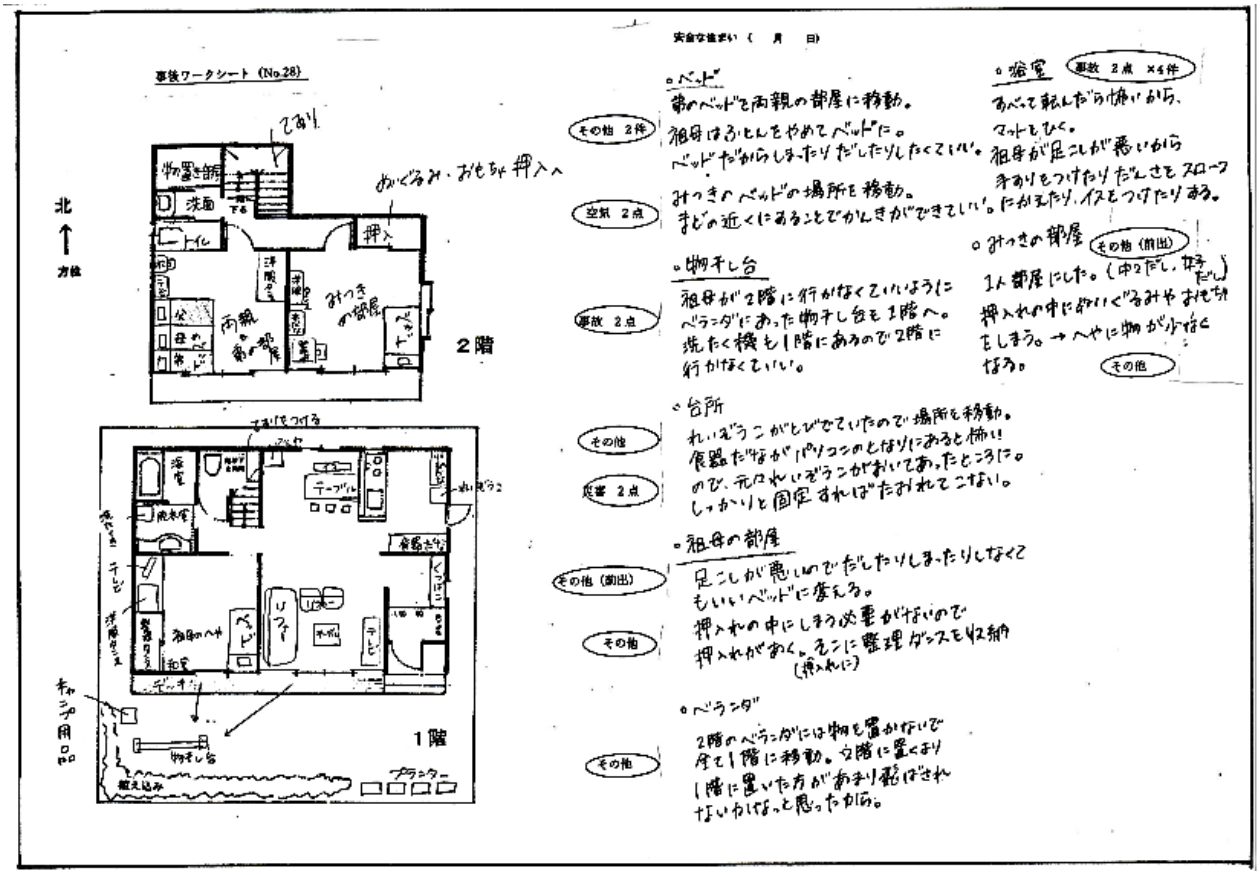

図５　授業後パフォーマンス課題の作品とその評価の例１（No.28）

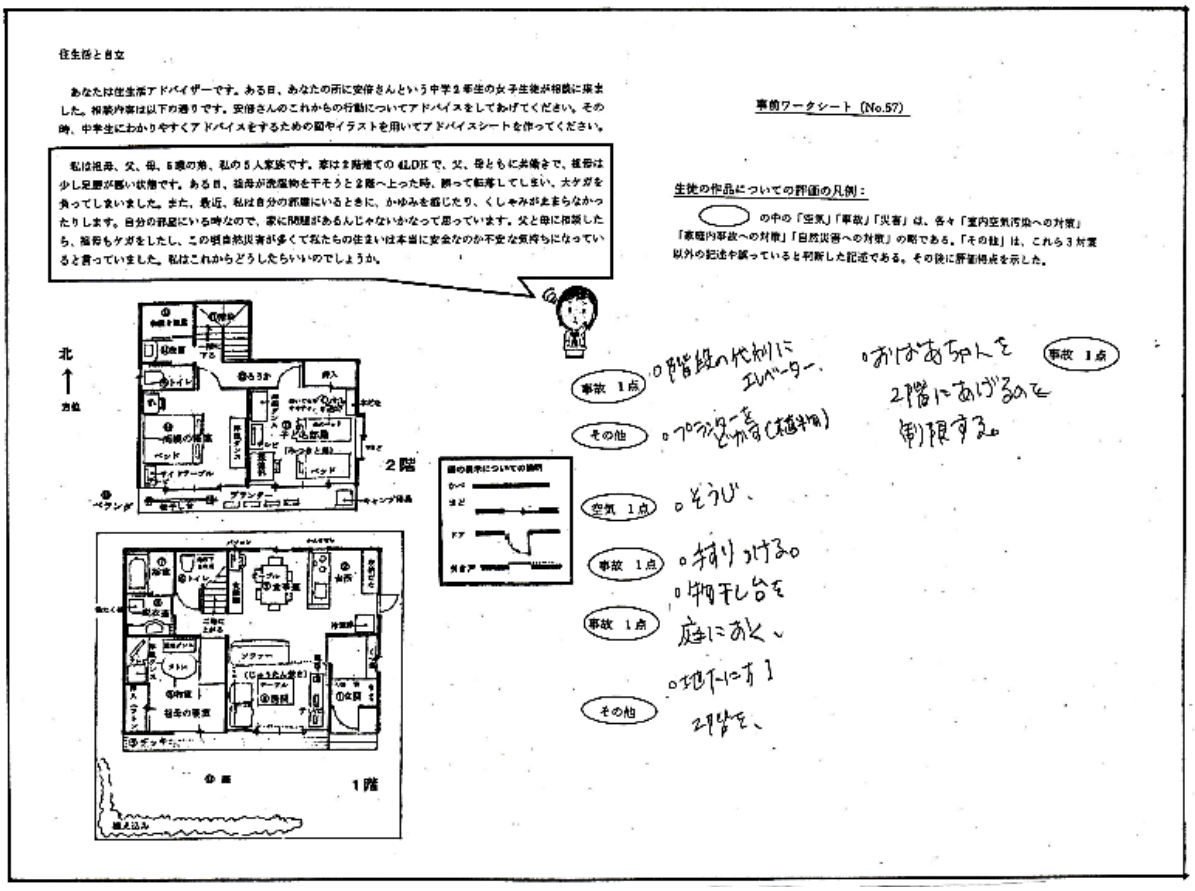

図６　授業前パフォーマンス課題の作品とその評価の例２（No.57）

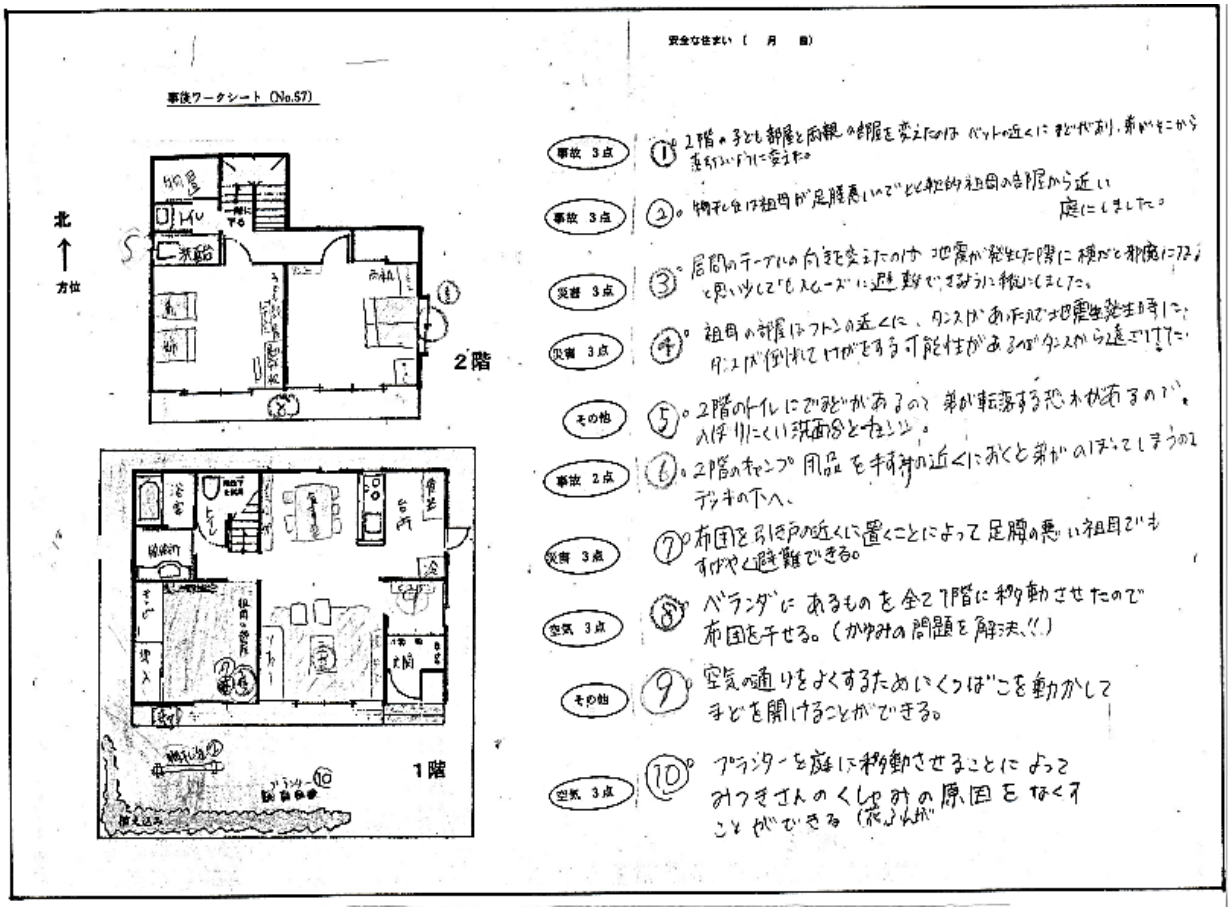

図７　授業後パフォーマンス課題の作品とその評価の例２（No.57）

課題を評価することにより，「室内空気汚染とその対策」「家庭内事故とその対策」「自然災害とその対策」の内容について，授業後に知識量が増加したことが明らかになった。さらに，記述内容を分析すると，３つの内容で共通して評価点の高い記述が有意に増加していることも明らかとなった。この際，今回のパフォーマンス課題において，文章だけでなく間取り図を使用したこと，中でも事後には家族の生活や家具などを記入したりという活動が含まれていたことの効果も重要であったと思われた。また，題材の学習の最後に取り組んだパフォーマンス課題は，題材のまとめとしての機能を果たすこともでき，生徒自身が題材で学習した知識の定着度を把握することや，自分の住生活をふり返るきっかけとなることも確認することができた。

以上の結果，パフォーマンス課題に取り組むことによって，生徒が本質的な問いである「安全な住生活を送るためにはどうしたらいいだろう」という課題に対して，身近にできる工夫や対策について原因を考えながら論理的に考えることができたと考えられる。これらのことから，中学校家庭科住生活領域の学習にパフォーマンス課題と取り入れることは，有意義であることが明らかになった。

しかしながら，パフォーマンス課題を取り入れた学習を行うことには，課題もみられた。これは教師の負担と授業時間数の２つの面で考えられた。教師にとってパフォーマンス評価には時間がかかることである。ルーブリックを作成しているものの，記述量が多いため，全ての記述を評価することは，大きな負担と考えられる。また，パフォーマンス課題に対する生徒の取り組みには時間がかかってしまうことも課題である。

中学校家庭科では，特に授業時間数の不足が問題とされているが，今回のパフォーマンス課題には，授業後の場合１時間という授業時間では十分ではなかった。内容を厳選しながら，生徒の資質・能力をはかることが可能な課題を設定する必要がある。また，本研究の授業では時間に制約があり，取り組んだパフォーマンス課題の解答を他者と共有したり，実際に説明したりといった時間を設けることができなかった。生徒が他者に説明することによって，より一層，「思考力・判断力・表現力等」が深まることが期待でき，他者との共有する時間を設ける必要があろう。今後，これらの課題を解決するため，さらに検討を続けていきたい。

引用・参考文献

1) 文部科学省，平成 29 年中学校学習指導要領解説技術・家庭編

2) 中央教育審議会：幼稚園，小学校，中学校，高等学校，及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について（答申），2016

3) 山口美紀，岡陽子：生徒の主体的な問題解決能力を育む技術・家庭科の題材構成と授業に関する考察ーパフォーマンス評価及びポートフォリオ評価による授業分析ー，佐賀大学教育学部附属教育実践総合センター(34)， pp.497-506， 2017

4) 角間陽子，小口博子：消費生活において「活用する力」を評価するパフォーマンス課題の検討，東北家庭科教育研究 15, pp.31-37， 2016

5) 角間陽子：「他者とよい関係をつくる力」を評価するパフォーマンス課題の検討, 東北家庭科教育研究 16, pp.6-12, 2017-03

6) 福岡市教育センター　家庭，技術・家庭科研究室：基礎的・基本的な知識や技能の確かな習得をめざす家庭，技術・家庭科学習指導－問題解決的な学習におけるパフォーマンス評価を通してー，福岡市教育センター平成 28 年度研究報告書（第 1007 号）

7) 西岡加名恵編著：アクティブ・ラーニングをどう充実させるか資質・能力を育てるパフォーマンス評価，2016，明治図書

8) 西岡加奈恵，永井正人，前野正博，田中容子，京都府立園部高等学校・附属中学校編著：パフォーマンス評価で生徒の「資質・能力」を育てる，2017，学事出版

9) 星野洋美，吉本敏子，小川裕子他 4 名：生活場面で実践できる力の実態と課題―前回調査をふまえた調査設計の経過と構想―，日本家庭科教育学会，第 60 回大会研究発表会要旨集, pp.174,175, 2017-06

10) 山下美乃里「中学校家庭科住生活領域の教材開発と授業実践―題材『安全な室内環境の整え方』を中心に―」（静岡大学大学院教育学研究科 2017 年度修士論文，2018-03）に詳しい。